

『建築職 総まとめ講座 環境工学・建築設備』(KU12289) 訂正表

2016年03月04日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 5	下から 2 行目	換気量は比重差の平方根と給・排気口の高さの差の平方根に比例する。	換気量は比重差の平方根と給・排気口の高さの差の平方根と、開口部面積に比例する。	2016/03/04
P. 11	3 行目	<p>熱貫流率 K</p> <p>壁体の熱の伝わりやすさを示す値。単位は[W/m²K]。熱貫流率は次式で求められる。</p> $K = \frac{1}{\frac{1}{\alpha_1} + \sum \frac{d}{\lambda} + R_a + \frac{1}{\alpha_2}}$ <p>ここで、K：熱貫流率[W/m²K]</p>	<p>熱貫流率 U</p> <p>壁体の熱の伝わりやすさを示す値。単位は[W/m²K]。熱貫流率は次式で求められる。</p> $U = \frac{1}{\frac{1}{\alpha_1} + \sum \frac{d}{\lambda} + R_a + \frac{1}{\alpha_2}}$ <p>ここで、U：熱貫流率[W/m²K]</p>	2016/03/04
P. 34	【解答 2】 1	1 正 そのとおり。騒音レベルによる許容値は、住宅の寝室で 38～40[dB]、音楽ホールで 25[dB]程度である。	1 正 そのとおり。騒音レベルによる許容値は、住宅の寝室で 35～40[dB]、音楽ホールで 25[dB]程度である。	2016/03/04
P. 34	【解答 2】 5	一般に、1,000[Hz]を基準として低音は弱く、高温は強く感じる傾向がある。	一般に、1,000[Hz]を基準として低音は弱く、高音は強く感じる傾向がある。	2016/03/04
P. 40	下から 7 行目 2 環境技術 (2)	(2) 蓄熱層 冷水または温水を蓄え、必要なときに随時使用するための空気調和設備。	(2) 蓄熱槽 冷水または温水を蓄え、必要なときに随時使用するための空気調和設備。	2016/03/04
P. 45	下から 3 行目 音響 音圧	音によって生じる圧力の大きさ[Pa]	音によって生じる圧力変化[Pa]	2016/03/04
P. 48	1 単一ダクト方式 (1) 概要・特徴 3 行目	熱輸送方式による分類では、前空気方式に分類される。	熱輸送方式による分類では、全空気方式に分類される。	2016/03/04
P. 56	3 受水槽・高置タンク (2) 清潔維持 ①	① 受水槽や高置タンクには、点検・清掃のために周囲・底部は 600[mm]以上、上部は 1500[mm]以上のスペースを確保する。	① 受水槽や高置タンクには、点検・清掃のために周囲・底部は 600[mm]以上、上部は 1000[mm]以上のスペースを確保する。	2016/03/04
P. 59	3 給排水設備の留意事項 (1) ウォーターハンマー 3 行目	弁の開放時間を長くしたり、エアチェンバーを設置したりする。	弁の開放時間を長くしたり、エアチェンバーを設置したりする。	2016/03/04
P. 63	【No. 2】 4	4 × 一般に、排水管は流下方向の管径を縮小せず、排水立て管は、下層から上層まで同じ径とする。	4 × 一般に、排水管は流下方向の管径を拡大せず、排水立て管は、下層から上層まで同じ径とする。	2016/03/04
P. 74	【No. 3】 3	3 × 細かい視作業をする室の照度は、700～1,500[lx]程度（製図室など）必要である。200[lx]では低すぎる。	3 × 細かい視作業をする室の照度は、750～1,500[lx]程度（製図室など）必要である。200[lx]では低すぎる。	2016/03/04

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitai>)に掲載された日付です。